

KEIBUN 15 周年特別企画 日本伝統芸能シリーズ

春、日本の誇る伝統の美と卓越した技がびわ湖ホールに舞う。

第一回KEIBUN自主公演能



能楽
殺生石
女体

片山九郎右衛門

重要無形文化財能楽指定
紫綬褒章受賞
日本芸術院会員

間
茂山千三郎

The Noh

狂言
察化

茂山七五三

茂山茂

丸石やすし

後見 茂山逸平

平成11年4月16日(金)午後7時開演
滋賀県立芸術劇場 びわ湖ホール 中ホール
入場券 S席 6,000円(1階) A席 3,000円(2階)
前売開始 11年1月15日(祝・金)午前10時

KEIBUN友の会会員特典がございます。(年1回ご招待3,000円引き、ご優待500円引き)

会員募集中

日本のオペラ



日本の代表的古典演劇「能」とは歌舞を伴う劇的展開をもつ芸能の全てをいったそうです。奈良時代に唐から輸入された散楽が我国での起源といわれていますが、当時は、奇術や軽業が主となっていました。平安時代には滑稽な物まね芸を演じるようになり、鎌倉時代には猿楽として興行されるようになりました。そこで、対話を中心とした狂言と、歌舞を中心とした能がそれぞれ発展しはじめました。その猿楽能が南北朝時代から室町時代にかけて、観阿弥・世阿弥の出現により、芸術的に高度な芸能とした大成されたのです。これは將軍足利義満による、彼ら父子に対する甚大な庇護が契機となったわけですが、同時に、貴族、僧侶、武士、農民などの幅広い観客層の支持も見逃すことはできません。私どもしがぎん経済文化センター・KEIBUNは、これまで、邦楽・落語・狂言など様々な日本伝統芸能を取り上げてまいりました。当社創立15周年の記念に、日本の誇る総合舞台芸術「能」を、(財)びわ湖ホールの共催を得、皆様に提供してまいります。「愛」や「罪」など人間の情念の根源的な物を主題とし舞台に結晶化する。死後の時間を原点とし人生の全てを見つめる。劇的状況を再現する西欧の舞台とは異なる、いわば、日本独自のオペラと言える「能」。是非とも、この機会に幽玄の美に酔いしれてみてはいかがでしょうか。

平成十一年四月十六日(金)午後七時開演

於 びわ湖ホール 中ホール

しがぎん経済文化センター

びわ湖ホール

共催能 番組

狂言

察化 茂山七五三

茂山 茂
丸石やすし

後見 茂山逸平

能楽

片山九郎右衛門

殺生石 植田隆之亮

女体 間 茂山千三郎

河村 大 前川光長
曾和尚靖 杉市 和

味方 玄

後見 片山慶次郎

青木道喜

地謡

橋本忠樹 武田邦弘

分林道治 片山清司

働き 武田 晋

能楽

殺生石(せっしょうせき) あらすじ

玄翁という僧が下野の那須野を通りかかると巨石があつてその上空を飛ぶ鳥が落ちてくる。ふと現れた女が、その石が危険だとその由来を聞かせる。「昔、宮中に学芸優秀の美女がいて、尋ねられたものは何でも答えたので、玉藻前(たまものまえ)と名付けられた。ある夜秋風に灯火が消えたとき、玉藻前の体から光を発して宮中を照らしたが、帝は病になってしまった。占いをすると、玉藻前は化物とでた。そこで玉藻前は、ここ那須野に逃げて石魂になった。実は自分こそがそうなのだ」といい「夜になったら、真の姿を見せる」と、石の中に消え去る。僧が仏事を営むと、石が二つに割れ、妖狐の姿が現れる。妖狐は天竺・唐土・日本と三国に渡って危害を加えてきた。この野で武士達に討たれた後は、石魂となり人畜に害を加えていたが、今の仏事で悪心が去った。この後は悪事を行わないと約束し消え去る。涙みをきかせた(クセ)と小気味よい活劇風の(中ノリ地)が中心。魔性の魅力をもつように際立たせて演出しているかにも注目。

狂言

察化(さつか) あらすじ

主人は都の伯父を連歌の宗匠に頼もうと太郎冠者を迎えにやる。伯父の顔も家も知らない冠者が大声で捜し歩くのを見た都の察化という悪者が、伯父になりすまして現れる。冠者が察化を伴ってかえると主人は人違いを詫言びて、なんとか察化を都に帰そうとするが、冠者が失言を繰り返す。見かねた主人が「自分の言いつけどおり」にするようにいうのを、さらに冠者は物まねをすれば良いと勘違いし、察化を打ち叩いたりし、座敷ぎを混乱させてしまう。愚かさを通り越した太郎冠者の超ナンセンスさが売物で、逆に現代的な作品である。

滋賀県立芸術劇場

びわ湖ホール

〒520-0806

滋賀県大津市打出浜15番1号

●交通のご案内

大阪から39分、京都から10分、

名古屋から60分(JR利用・大津駅着)

●JR琵琶湖線「大津」駅、「膳所」駅より徒歩約15分

●京阪電鉄「石場」駅より徒歩約3分

●名神高速大津ICより約5分

(びわ湖ホール駐車場854台・有料)

予告

第2回 KEIBUN自主公演能(予定)
ひこね市文化プラザ・グランドホール
10月30日(土) 演目・一角仙人